

平成25年度 わくわく市民懇談会

1 日 時 平成25年8月1日(木) 午後7時30分～午後8時30分

2 場 所 一本木研修センター 1階 大広間

3 出席者 一本木一日会 16名
市長、随員職員2名

4 次 第 一本木一日会8月定例会

5 市長講話

「地域力の創造、地方都市中野市の未来に向けて」

- ・冒頭のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・市を取り巻く環境の変化・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・人口減少に伴う変化について・・・・・・・・・・・・ 2
- ・北陸新幹線による人流について・・・・・・・・・・・・ 3
- ・信越9市町村のポテンシャルについて・・・・・・・・ 4
- ・地域づくりについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・観光における価値観の変化について・・・・・・・・ 5
- ・中野市のブランドづくりについて・・・・・・・・・・ 5
- ・地域活性化に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ・質問・意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

「市長講話」

冒頭のあいさつ（わくわく市民懇談会について）

- いろいろなところで話をしていますが、その時の皆さんの反応などありますけども、自分の中でプランニングとして考えがあり、来年に向けて本格的に色々ものを仕掛けていこうと思っています。本日は、「地域力の創造、地方都市中野市の未来に向けて」という演題でお話しさせていただきますので、皆さんに聞いて頂き、皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

市を取り巻く環境の変化

- 人口が減少してきている。これに対して何をするのか考えなければならない。
- 環境変化として北陸新幹線開通がある。これにより人流が増加する。
- グローバルな世界に中野市はなりつつある。中野市における外国人登録者数は概ね 680 人がいて、既製商品を見てもメイドインチャイナを含めて海外の製品も生活に多くなってきている。環境の変化は一地域でのみ起こるのではなく、東南アジアの経済が日本経済に影響するような、グローバルな視点で考える必要もあるけれども、私たちの足場はローカルであり、軸足を地域の中心に置いて、視野を広く持って、物事を考えていく必要があります。中野の常識は、外に出たら常識ではない。それを皆さんに突き詰めて考えてもらいたいと思っています。
- 豊かさの変化が生じている。それぞれが豊かさと思うものをそれぞれの個人個人の価値観で物事を考えている。物での世界では価値観が多様化しており、具体的な価値観としての中身は、GDP では中国は日本を抜きました。ところが中国は貧富の差が激しく、本当に幸せなのだろうか、幸福度合はどうなのだろうかと考えた時に、GDP の中には二酸化炭素による温暖化、森林面積、空気がきれい、水がうまいなどは含まれていません。そこで感じるものは、物質的な豊かさではありません。
- 日本は先進国の中でも抜きんで高齢化社会を迎えますが、以上、4点とも根本的に人口に係る部分であり、これを踏まえて中野市を考えていく必要があると感じています。

人口減少に伴う変化について

- 中野市の人口は、現在、4万5千人を下回っています。これが後、20、30年後には3

万 5 千人になると言われています。もう一つ、人口構造が変わってきており、人口の高齢化を示す指標となる老年人口指数が昭和 35 年で 11.9%であったものが、現在では 44.7%になっています。この数字はこれから先も上昇する傾向にあり、マーケットも変わってきているものと思います。

- かつては人口が増える中で経済が成長してきました。それに合わせて経済対策、街づくりが行われてきましたが、これからは人口が減少していく中で考えて行かなければならない。中野市の人口が 4 万 5 千人から 3 万 5 千人に減少するという事は驚異的なことであり、危機感を感じている部分でもあり、それを念頭に置いていろいろな対策を考えなければならないと考えています。
- 人口が減少することによって、年金、財政、医療など人為的経費が増加し、生産年齢人口が減り、日本経済の空洞化が生じてきた事象に対し、日本は生産性を高めたり、技術革新により対応してきた中、中野市としても、皆さんと知恵を出し合って、ターゲットを決めて、こういう風な中野市になりたい、一地域になりたいなど明確なビジョンを立てて、それに向かって協力し合うことが必要だと考えています。協働して取り組みましょう。
- では具体的にこれから何をしていけば良いのか。昔は企業誘致であったが、これからは人が集まってくるような仕掛けを中野市に出来ないだろうかと考えています。あとは交通政策です。
- 今後、人口は少なくなるため、交流が必要であり、人に来てもらう仕組みを考える。さらに広域で連携して、ただ中野市だけの文化資産というものを売るのではなく、エリア全体で考え、中野市独自のものに市民の皆さんの協力を得て付加価値を付けて、中野市から売り出していきたい。
- 将来的には飯山の人口はやがて 2 万人を切る。今、栄村の住民登録は 2 千人あるものの、実質住んでいる人は 2 千人を切ったと言われています。それくらい人口が減ってくるという環境下で、もっと広域での中野市の存在がこれから薄くならないように、この地域に人口が集中して行って、地域の中心になるような仕組みを作らないと、例えば山ノ内町から中野市、中野市から長野市に移るといった人口の流れが出てきて、地域間競争、都市間競争が始まると考えています。

北陸新幹線による人流について

- これから 10 年後、北陸新幹線が開通して 8 年後、福井県敦賀まで新幹線が通る予定です。そうすると京都までも近くなります。天橋立まで中野市から 5、6 時間かかっていたものが、2 時間半から 3 時間程度で行くことが可能になる。人流を変える新幹線がこれから開通します。これを変化と捉えて、前向きにチャンスと捉えて、観光開発に取り組んでいくべきだと考えています。
- 北陸新幹線に対応して、時間短縮により人の行動範囲は広がります。東京から長野まで 1 時間半で来ることが出来る。長野から金沢まで 1 時間。そこで、観光による人の流れを考えると、首都圏だけでなく関西からの流入があるのではないかと考えています。
- これは関西から長野への時間、関西から東京までの時間を比較して、新大阪から米原で「ひかり」に乗って、2 時間半で金沢まで行くことが可能です。金沢まで来たら長野までは 1 時間。合計 3 時間半になります。新大阪から東京へは「のぞみ」で 3 時間から 4 時間程度かかります。つまり、時間的には差はありません。さらに、新大阪から東京へ行こうと「のぞみ」に乗車すると、約 85%はビジネスマンで、家族や旅行者はわずかに乗車しているにすぎません。かつて、志賀高原は関西人のスキー客で賑わっていました。関西の人にとってみれば、信州という場所は周辺にない環境であり、つまり魅力がある場所ではないかと考えています。したがって、関西の方がマーケットとしては大きいのかも知れません。

信越 9 市町村のポテンシャルについて

- 北陸新幹線が開業することで、東京からの距離、関西からの距離が近くなる。では、北信五岳、志賀高原、上信越公園などに囲まれた世界的に見ても有数のエリアであり、国際的なスキー場、野沢温泉、志賀高原、白馬、妙高赤倉がある、こういったポテンシャルの高い地域で観光開発をやりましょうと信越 9 市町村が連携して話が進んでいるところです。
- 新幹線に限らず飛行機でもあるパック旅行ですが、空席を狙って旅行業者がパッケージにしてパック旅行にして売り出す。関西、東京から来る人、東京からは少ないけれども、関西からは空席がいっぱいあるだろうというところを狙って、パック旅行で信州に旅行しませんかと組む仕掛けです。東京から長野に向かうと高崎、軽井沢で人が降りてしまつて、長野に到着する時には誰も乗車していない、そういう状況を狙って関西からのパック旅行を組めないだろうかと考えているところです。

地域づくりについて

- 妙高市まで含めて信越 9 市町村で人口およそ 15 万人になります。これがやがて人口減少により 10 万人規模になる。10 万人を切ると政府も一つの広域として重点を置かなくなるようなことを言っていることから、全体併せて 10 万人規模の信越 9 市町村で連携して取り組めば、この地域もメジャーになれるのだということを必死に考えて欲しいと考えています。
- 妙高市を入れて信越 9 市町村でその面積は 1900 平方キロメートルとなります。中野市は 112 平方キロメートルしかありません。それだけ中野市はコンパクトな街になります。地域を経営していくうえで、何かしら厳格な経営理念が必要だと思っています。
- 伝統的ないわゆる考え方、伝統的な価値観であるとか、その地域に住む人たちの風土というものがあるかもしれませんが、もう一度地域の文化の良さを自分たちで認識することが必要だと思っています。中野市にしかない何かしらのもの、私はそれを明確にしていくことで絶対的な価値を見つけられたら良いと思っています。

観光における価値観の変化について

- 価値観について言えば、旅や観光のトレンドが変わってきています。以前は、消費文明、京都、奈良、パリ、ローマ、ニューヨークなどの大消費都市に旅行者が多かったが、現在は、自然体験、農村体験、下町歩きというような作る文化を見に行くといった、生産文明、作る現場を見に行くことによって、その空気に触れるというようなトレンドが変わってきている。
- 例えば、善光寺に参詣に来る旅行者が、それから草津温泉に旅行する、そういう観光スタイルから、そこに長期滞在して自分でその地域を歩き回る、そういう人たちが増えてきている。旅行先で贅沢して過ごすような非日常性のものから、日常的に過ごす、そういう人たちが増えてきている。これをツーリズムと言います。

中野市の地域ブランドづくりについて

- 地域の色々なものを見せることで、観光資源になるのではないかと、段々確信を深めているところです。
- 私は皆さんに中野市は素晴らしいものがあると話していますが、実はそれは磨きを掛け

なければ良くならない。成功している地域に共通して言えることは、そこにいらっしゃる事業者、住んでいる方たちの集団的な努力によって、街が栄えている。

- 例えば、熊本県の黒川温泉が良い例です。これまでの旅館の常識は旅館の中に土産物屋があつて、旅館に入ったら外に出ない、出さない。これまでの常識から、黒川温泉の人たちが知恵を出し合つて、黒川温泉の旅館には一切土産物屋を置かない、必ず外にでる、外に出ていくとそこに土産物屋があつて、商品が売れる、動いてもらうという仕掛けを作りました。
- これからは新たな時代が来ているため、人口増加の時は、私たちは努力しなくても人が増えるから何もしない、この考え方は捨てた方が良いと思っています。努力しない自治体、工夫をしない、知恵を出し合わない地域はもうこれからは栄えない。
- 私が色々な地域を訪問しているのは、その地区で何があるのか、その各地区のブランドを作り上げて、それを調整し相互に連携することによって、中野市のブランドは出来上がってくる。

地域活性化に向けて

- 地域活性化のカギは人、交流です。
- 交流を担う 3 つの条件は、個人客として自分の経験として色々な所に出かけている人、地域のチャンネルが多い人、色々なところに住んだ経験のある人、こういう人たちは比較対象があることになる。つまり、お客さんの心を理解できる。
- 今回、有効求人倍率が発表になりましたけれども、女性だけが、格段に男性の失業率より改善しています。これからは労働人口が減ることからも女性の社会進出はどんどん進んでいくことでしょう。女性の観念で、女性をいかに理解するかというような感覚が、実はマーケットには必要だと言われています。女性感覚の、女性を大事にする感覚がある地域には人は流れてくる。
- 自分だけでなく地域全体を巻き込んで努力する人がこれから必要だと思っています。自分だけが良ければよいと思っている人たちが、そこに住んでいるだけでは絶対に良くなりません。私たちは一緒になって取り組もうという気持ちを皆さんに持ってもらいたいと考えています。

- 中野市の施策を進めるにあたり、何か取り組む時にはとにかく交流連携を切り口に、中心に行っていきたい。一番は人材育成です。人が集まる、中野市に行ったら何かがある、中野市に行ったら何かできそうだ、そういう仕掛けを今は行っていきたいと思っています。

質問・意見

◎市役所、市民会館について

Q 市役所と市民会館について、どの辺まで進んでいるのか。

A 第2回目の会議がありまして、今回は外部機関に客観的なものの考え方、データを集めてもらいました。ただ、それが全てだとは思わないのですが、信越連携、広域連携を長期に考えた時に、市役所をそこに置いておいていいのか、高速道路の方に持っていったらどうなのかという事もあったのです。本当にそうなのかという事で、客観的に、ここ2、30年で考えられる世界で、土地の条件等考えると、今考えられる一般的な要素で2つ、現在の地域と、旧中野高校の地域が、財政的にも一番いい地域という事になりました。

今度の第3回目の会議に、それを踏まえてどういった考え方で、どこに何を建てるかというアイデアを私が考え、会議に提案し意見を聞こうという事をします。今日お話ししました政策と絡めて、これから機能、コンセプトをどういった目的でという提案を考えていきます。

Q 昔から都市開発ということで、道路等考えてきていると思うが、それを考慮しているのか。

A 今回の会議は、人口集中地区等の客観的な事だけですが、次回は、人為的な政策項目も1つの要素として入れ込まなくてはいけない説明材料になってくると思います。

Q 栗和田の都市計画道路は存続路線として残りましたね。市民会館でも庁舎がきてもいいですね。市長としての考えを早く聞かせてもらいたい。

A 将来的にも市道の総延長が相当長いと聞きました、人口が減少するとそれを全て市道として管理するのは難しくなっている。そういう指定道の見直しも必要になってきます。都市間競争の中でどうやって住みやすい、環境のいい中野市を作っていくか考えなくてはいけない。

市民会館も、一緒に建てるか、別々に建てるのかは、いろいろな要件があり、自分の考えを練って、中野市のために考えていきたい。今度の会議に意見を出します。

◎バラまつりについて

Q 一本木公園のバラまつりですが、入場者数が減少していますが、県外からのお客さんが減っているのですか。もう少し人を集める事を考えては。

A そこまでの、データを持っているのか、分析できているのか分かりませんが。

来年は、ばらサミットを中野市で開催します。加盟都市が 22 都市あります。足を運んで全ての都市に参加してもらいたいと思っています。バラまつり期間中にいろいろ仕掛けをしていきたいと考えています。今年開催の岩見沢市で感激したことは、高校生がグッズを作っていたり、あらゆるところで参加しているそういうやり方もあるんだなと思いました。「もう一つのばらサミット」として、大人でなく次の世代の高校生が考えていました。その考え方を引き継いでいきたいと思っています。中野市の次の開催市である島田市とも協力して、ネットワークをつなげていきたいと考えています。

Q バラまつり、駐車場等の対応について。

A クレーム対策、何かあった時の対応が出来ていない。誰が責任を取るのかなど、システムが出来ていない。今後、考えなくてはいけないと思っています。

障害者の方の対応についても、物理的に駐車場だけの問題なのか、対応次第で、相手の方に不満な気持ちを持たれずに済む対応が出来たのかなど、マニュアル化していくことも必要なかと思っています。

Q 各駐車場での対応が、スタッフではなく警備会社に対応しているのはどうしてか。対応が悪いのではないか。

A 対応が統一化されていない。始まる前にスタッフに周知徹底することをしていないからだと思います。人によって対応が変わるのはよくない。

人の問題になっていますが、8万人という人数に対応するのは、今の体制ではサービスの質を上げることは無理になってきている、考えていかなくてはいけない。マニュアルの問題もあるが組織体制の問題もあるので、それをどう作り上げるかが来年の課題です。

Q 市内から一本木公園までお店がなく、歩くだけになっているが、お店を出してはいけないのか。

A 来年は、市内までどうやって繋ぐか、公園に来てもらうだけでなく、市内を見てももらうための仕掛けを考えています。